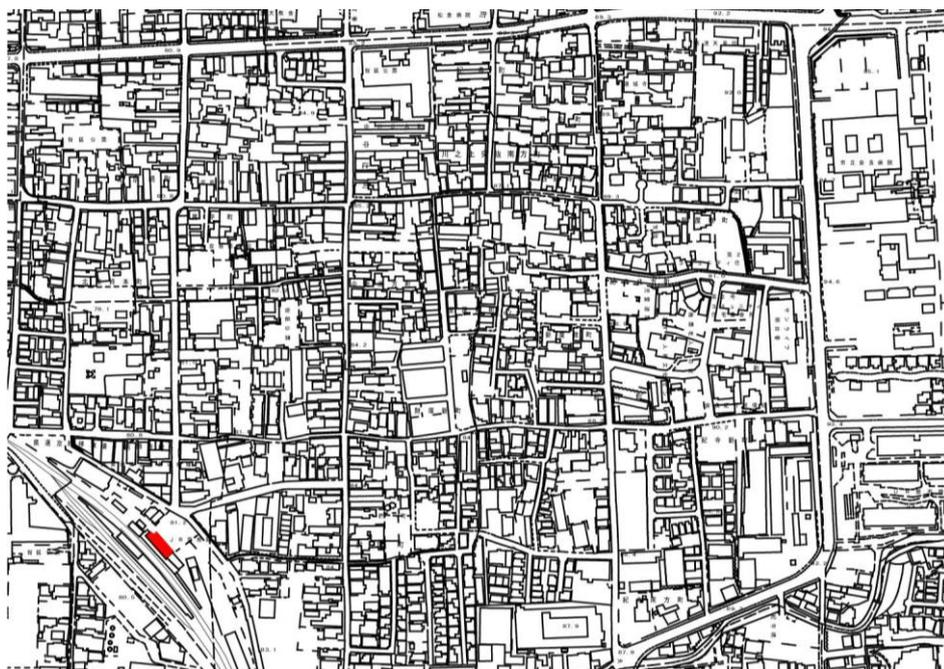


歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	16	名称	京終駅舎（奈良市京終駅観光案内所）
指定年月日	R1.6.12	所在地 (指定地)	奈良市南京終町 204 番地 3
指定建造物	駅舎	建築年代・概要	明治 31 年 木造平屋建、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>京終駅は、平城京の外京南端で、奈良町の南限に位置する南京終町に所在する西日本旅客鉄道桜井線の駅である。元は明治 31 年（1898）5 月に京終から桜井まで開通した奈良鉄道の駅で、翌 32 年（1899）10 月の奈良～京終間開通以降、他の私鉄とともに奈良盆地を一周し、奈良から京都と大阪を結ぶ鉄道として、奈良の主要な交通を担ってきた。京終駅周辺は農村地域で、大正時代から昭和初期頃は市場や工場が立ち近代工業地域でもあり、駅は通勤通学の利用客だけでなく貨物の輸送にも利用されてきた。近年は、観光客やゲストハウスの増加に伴い、奈良町の南の玄関口としての利活用が進められている。</p>		
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>駅舎は、建物財産票から明治 31 年 4 月の建築と考えられ、木造寄棟造、平屋建て、棧瓦葺で、北東向きに建ち、正面向かってやや左寄りに切妻造妻入の車寄せが付く。桁行約 23.8 m、梁間約 6.4m の右側面に桁行約 3.6m、梁間約 3.6m の空間が張り出す。外壁は、基礎の上に腰縦板張り、その上は軒下約 80cm までが下見板張りで、その上部に漆喰を塗る。窓は縦長の上げ下げ窓が付く。内部は、入口からまっすぐ建物を通り抜けた先に改札口があり、入口と改札の動線を境に、左は待合室、右は旧駅務室を改修した観光案内所となっている。</p> <p>明治 36 年刊行の『奈良鉄道名勝案内』の口絵写真には、屋根にドーマー（屋根窓）がつき、片流れの屋根の車寄せの付く京終駅舎が載っている。その他、右側面に張り出した部分の正面側に宿直室が、右にさらに張り出すかたちで浴室が増築、窓が横長の引違に改造されていたが、いずれも改造時期は不明である。平成 29 年度、30 年度の改修工事の際に、宿直室と浴室を撤去、窓は当初の形式に復旧された。</p>		
活用	<p>地域住民が京終駅を活用したまちづくりを提案し、地域住民が主体の NPO 団体が運営するまちかど観光案内所である京終駅観光案内所が平成 31 年 2 月 23 日にオープン。年間 4 ～ 5 回程度、コンサートやマルシェなどの地域イベントを実施予定。</p>		
価値	<p>明治期から地域住民の生活を担ってきた鉄道の駅舎で、平成 31 年からは地域住民が主体となって運営する観光案内所として地域住民や観光客が交流するイベントが実施されている。奈良探訪のあり方が多様化するなか、奈良町散策の新たな拠点となっており、奈良市の社寺・名所・旧跡への探訪にみる歴史的風致の維持向上に寄与するものである。</p>		



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図

